

Title	社会的リスクとしての犯罪に関する経済分析
Author(s)	川島, 広也
Citation	大阪大学, 2014, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/50560
rights	
Note	やむを得ない事由があると学位審査研究科が承認したため、全文に代えてその内容の要約を公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉 大阪大学の博士論文について 〈/a〉 をご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

論文内容の要旨

氏名 (川島 広也)

論文題名 社会的リスクとしての犯罪に関する経済分析

論文内容の要旨

本稿は、社会的リスクである犯罪の規定要因に関して、計量経済学の観点から分析を行うものである。具体的には、雇用状況や豊かさが財産犯に影響を与えるのか(第1章)、監視がルール違反に影響を与えるのか(第2章)、地域社会が少年の非行の抑止の役割を果たしているのか(第3章)という論点について、それぞれ計量経済学の手法を用いて検証を行った。各章で得られた結果及び政策的含意は、以下の通りである。

第1章では、雇用状況及び豊かさが犯罪発生率に与える影響を、1980年から2000年までの5年置き都道府県パネルデータを用いて分析する。犯罪発生率の要因分析をする際に重要な問題となるのが、説明変数の内生性をもたらす推定バイアスの存在である。そこで、本章では、パネルデータの利用および操作変数法を用いた推定により、内生性の問題を取り除きながら、真の犯罪発生要因について明らかにする。分析の結果、雇用状況は犯罪発生率に直接影響を及ぼさない一方で、貧困の増加が犯罪発生率を高めることが示された。

第2章では、警官数が犯罪に影響を与えるかを検証するために、WJBLリーグのデータを用いて、審判数がファール数に与える影響について分析を行った。WJBLリーグでは、ルールを国際基準に合わせるために、上位リーグであるWリーグにおいて、WJBL2010-2011に3人審判制を導入した。本章では、自然実験を用い、さらに観察できない選手間の異質性を考慮した分析を行った。分析の結果、審判数はファール数に影響を及ぼすことが示された。

第3章では、地域社会が少年の非行抑止に果たす役割を、2002年から2007年までの都道府県別パネルデータを用いて分析する。その際、日本では地域で子どもを育てる発想があり、その中心的役割をはたしてきた子ども会に着目する。子ども会は、地域における少年の非行を抑止するための親同士の相互監視システムとしての機能を果たしている。そこで、本章では、地域社会における少年非行の抑止力として子ども会加入率を用い、少年非行に与える影響を検証する。分析の結果、子ども会加入率は小学生の非行に影響を及ぼすことが示された。

論文審査の結果の要旨及び担当者

氏 名 (川島 広也)		
	(職)	氏 名
論文審査担当者	主 査	教授 赤井伸郎
	副 査	教授 山内直人
	副 査	教授 野村茂治
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>本稿は、社会的リスクである犯罪の規定要因に関して、計量経済学の観点から分析を行い、犯罪抑止のあり方を検討したものである。3本の論文から構成されている。具体的には、雇用状況や豊かさが財産犯に影響を与えるのか(第1章)、監視がルール違反に影響を与えるのか(第2章)、地域社会が少年の非行の抑止の役割を果たしているのか(第3章)という論点について、それぞれ計量経済学的手法を用いて検証を行っている。各章で得られた結果は、以下の通りである。</p> <p>第1章では、雇用状況及び豊かさに着目した分析を行っている。1980年から2000年までの5年おきの都道府県パネルデータを用いて犯罪発生率の要因分析を行っている。重要な問題となるのが、説明変数の内生性をもたらす推定バイアスの存在である。そこで、本章では、パネルデータの利用および操作変数法を用いた推定により、内生性の問題を取り除くことで、真の犯罪発生要因を見出している。分析の結果、雇用状況は犯罪発生率に直接影響を及ぼさない一方で、貧困の増加が犯罪発生率を高めていることが示されている。政策的含意としては、貧困を減らす政策の重要性を指摘している。</p> <p>第2章では、警官および監視に着目した分析を行っている。WJBLリーグのデータを用いて、審判数がファール数に与える影響について分析を行っている。WJBLリーグでは、ルールを国際基準に合わせるために、上位リーグであるWリーグにおいて、WJBL2010-2011に3人審判制を導入した。本章では、この自然実験に着目し、さらに観察できない選手間の異質性を考慮し、真の監視の効果を見出している。分析の結果、審判数はファール数に影響を及ぼすことが示されている。政策的含意としては、警察官を増やし監視体制を取ることが効果的である点を指摘している。</p> <p>第3章では、地域社会と少年の非行に着目した分析を行っている。特に、日本では地域で子どもを育てる発想があり、その中心的役割をはたしてきた子ども会に着目している。子ども会は、地域における少年の非行を抑止するための親同士の相互監視システムとしての機能を果たしているといわれている。本章では、地域社会のつながりが少年非行に及ぼす影響を分析している。2002年から2007年までの都道府県別パネルデータを用い、また、地域社会における少年非行の抑止力として子ども会加入率を用い、少年非行に与える影響を検証している。分析の結果、子ども会加入率は小学生の非行に影響を及ぼすことが示された。政策的含意としては、地域社会コミュニティの維持の重要性を指摘している。</p> <p>本論文の全体的な貢献としては、社会的リスクである犯罪の規定要因を見出すことで、犯罪抑止のあり方に関して政策の方向性を示した点を挙げることができる。</p> <p>以上、本論文は、適切かつ高度な計量経済分析によって信頼できる結果を得ており、有益な新たな知見を加え、重要な学術的貢献をしているものと評価することができる。よって、審査委員会は、一致して、提出された論文は博士（国際公共政策）の学位を授与するに十分値する、と認定した。</p>		